

病防第87号  
平成25年9月30日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

トビイロウンカの発生状況及び防除対策（技術情報第14号）について（送付）

トビイロウンカについては、8月6日及び9月10日付けで注意報を発表し防除の徹底を図ってきました。しかし、収穫まで期間がある晩生品種では坪枯れの発生・拡大が懸念されることから、現在の発生状況及び防除対策を下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考として御活用ください。

## 記

### 1 発生状況

- (1) 9月中旬の巡回調査では、10株当たり成幼虫数165.7頭(平年：23.7頭)で、平年比多発生、発生面積率100%で9月上旬に比べてトビイロウンカの増殖が急激に進み発生地域も拡大している(図1、図2)。
- (2) 現在までに、中生品種を中心に県下で坪枯れの発生を確認している(図3)。
- (3) 9月27日に福岡管区気象台が発表した気象予報によると、向こう1ヶ月の平均気温は高くトビイロウンカの増殖が懸念される。

### 2 防除対策

- (1) 特に晩生品種等の多肥栽培で栽培期間の長い品種では注意が必要である。
- (2) 要防除水準(収穫30日前：30頭/10株)を超えている場合は直ちに追加防除を実施する。
- (3) 坪枯れが発生したほ場では、可能な限り収穫を早め、坪枯れに伴う減収被害の拡大を防ぐ。収穫まで期間がある場合は、薬剤の使用回数や収穫前使用日数に留意して直ちに防除する。
- (4) 粉剤及び液剤は、トビイロウンカが多く生息する株元に付着するよう散布する。
- (5) トビイロウンカは、イミダクロプリド剤やBPMC剤に対する感受性が低下している。
- (6) 農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、登録がある農薬を使い、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守する。また、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行なうなど、危害防止に努める。

問い合わせ先

熊本県農業研究センター  
生産環境研究所(病害虫防除所)  
山口

TEL: 096-248-6490

e-mail: yamaguchi-t-dj@pref.kumamoto.lg.jp

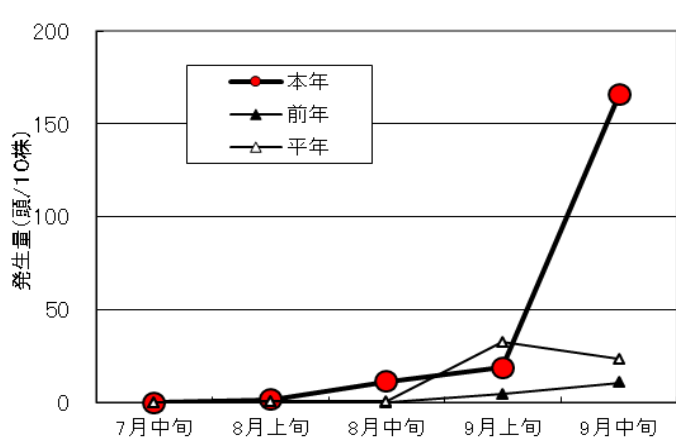


図1 成幼虫数の推移

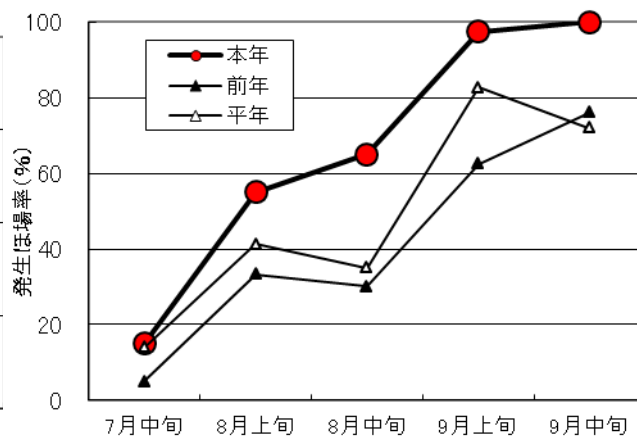


図2 発生ほ場率の推移



図3 坪枯れの状況 (9月25日撮影)